

シテ推スベキハ上記千町無田ノ平原ナリ。

(f) 東斜面 該方面ニハ東北ニ花牟禮火山ヲ控ユルヲ以テ他ノ三面ニ於ケルガ如ク均齊ナル裾野ノ發達ヲ見ムコト難シ、然レドモ花牟禮火山ヲ中心トスルトキハ其東南ニハ阿蘇野川ノ灌漑ニ浴シ今ハヨク開墾セラレタル阿蘇野地方ノ裾野ヲ見ルベケンモ其南方ニハ直チニ常磐嶽ノ隆起スルアルヲ以テ九重火山群ノ南斜面ニテ見ルガ如キ廣大ナル裾野ノ發達ハ之ヲ見ルヲ得ズ。

前記花牟禮火山群ノ東端ニ位スル時山及熊群山ヨリ東方ハ大分川ノ本流ノ浸蝕ニヨリテ發達シタル帶狀ノ平野ヲ見ルベク中間雲霧ノ之ヲ遮ルコト無クムバ視界ノ及ブ限リ其視慾ヲ妨グルモノナク晴天ニハ遙カニ帶水ノ如キ豐後水道ヲモ眺メ得ベシ、眼ヲ轉ジ一度北方ヲ望マンカ由布鶴見火山群ノ聳立スルアリテ其レヨリ以北ハ見ルヲ得ズ。

之ヲ要スルニ九重火山群中ノ諸峰ハ其海拔高距ニ於テ遙カニ他ヲ凌駕スルヲ以テ其諸峰々頭ニ立チテ四邊ヲ見ルニ渺トシテ視界ヲ遮ラズシテ殆ド脚下ニ之ヲ見ルノ感アリ。

第三章 九重火山群ノ地形

【第一節】 山 相

北方千町無田地方ヨリ見タル九重火山群 第一版ニ示スガ如ク千町無田ノ坦々トシテ綠氈ヲ敷ケルガ如キ平地ニ立チ南方ニ巍然トシテ聳立スル九重火山群ヲ見ルニ其雄大觀ル者ヲシテ感歎措カザラシムルモノ此一小縮圖ニテモ知ラルベシ、即チ缺頂圓錐形ノ黑嶽、圓錐形ノ平治岳(大船山ハ平治岳ノ後、三ノ峰頭ヲ有スル三俣山(久住山及本山ハ)ニ此後方ニ隱ル)、九重山ノ一部(三俣山トノ孔ノ噴煙)及峰頭ノ稍々不規則ニ成レル左方ノ黑岩山、右方ノ泉水山(湯坪火山ノ他ノ諸峰ハ隱レテ見エス)ノ如キ殆ド不規則ニ聳立シ以テ此等諸山噴出當時ニ於ケル火山活動ノ如何ニ熾シナリシカヲ偲バシム。

南方久住原ヨリ見タル九重火山群 翻テ南方ノ裾野ニ立チテ九重火山群ヲ仰ガンカ北方ヨリ見シトキニ後方ニ隱蔽セラレタル諸山ノミヲ見ルベク(第二版參照)、就中久住山ハ一見其火山ナル事何人ニモ肯定セシムルニ難カラズ、(モトヤ)本山ハ少シク不規則ナル形ヲ示セドモ其前方ニ大爆裂火口址ヲ有スルヲ以テ其山ノ性質ハ知ラルベク、大船山ノ「米窪」火口モ亦明カニ(第二版參照)之ヲ認ムルヲ得ベシ、尙本圖ニハ之ヲ缺ケドモ久住山ノ左(西)ニ當リテ九重山南端ノ一峰肥前ヶ城ヲ見ルヲ得ベシ、而シテ其雄大ノ點ニ於テハ北方ニ於テ見タルモノニモ劣ラズ、就中前面ノ廣漠タル裾野ノ發達ニ至テハ到底前者(千町無田地方ノ意)ノ及ブ所

ニ非ズ(前章参照)。

此方面ヨリ花牟禮火山ヲ見シコト到底不可能ニシテ却テ北方千町無田地方(第一版)ヨリハ其西端ノ一部ヲ望ミ得レドモ其雄大ノ點ニ至テハ同日ノ論ニ非ズ。

又湯坪火山ノ西方ヨリ見ルトキハ獨リ該火山ノ西壁ヲ成セル三峯ヲ見得ルノミニテ他ハ全ク隠レテ見エズ、而シテ該地方ヨリハ南方ニ横ハル阿蘇火山スラ之ヲ見ル能ハズ。

【第二節】 水系

(A)大野川流域 其本源ハ遠ク西方阿蘇火山外輪山ニ發スト雖モ九重火山群ノ南斜面ニ於ケル流水モ亦其水源ノ一タルヲ失ハズ、即チ産山川^{ウツヤマ}、稻葉川^{イナバ}、神馬川^{カンバ}、久住川^{クジュウ}ノ如キ諸川ハ何レモ皆南流シテ南方竹田盆地ニ於テ其本流ニ會セリ、而シテ本流ハ大體ニ於テ東流シ遂ニ豊後水道ニ其口ヲ開ケリ、其間上流ノ大部分ハ阿蘇鎔岩ノ地域ヲ流走スルヲ以テ其浸蝕ニヨリテ成リシ懸崖絶壁ハ彼ノ耶馬溪ノ絶景ニ髣髴タル點多々アリ。調査區域内ニ於ケル前記ノ諸川ハ何レモ水源ニ近キ上流ニ屬シ稍々急^(一般ニハ緩ナレトモ)ナル傾斜面ヲ浸蝕スルヲ以テ水量ニハ反比例シテ其浸蝕力及運搬力ハ強大ナリ、サレバ間々磊々タル岩塊ノ然カモヨク蝕磨セラレテ横ハルヲ見ルコトアリ(中ニ

ハ山崩レ等ニテ轉下シタルモノアラシモ)、加フルニ該地域ノ表面ハ流水ノ浸蝕作用

ニ對シテノ抵抗カ弱キ火山岩屑ニヨリテ蔽ハル、ヲ以テ此等諸川ハ何レモ皆其浸蝕ノ威ヲ恣ニセリ(其一二ノ例ヲ示サントメ)。(第三及第四版ヲ挿入セリ)。

(B)大分川流域 本流ハ元ヨリ由布火山地域ニ其源ヲ發スルモ予ノ調査區域ノ東半部ニテ見ル阿蘇野川及大石川ノ如キモ亦其主ナル支流タリ、就中花牟禮火山ノ東南裾野ノ沃野ハ獨リ大船火山群中ノ黑嶽ノ北麓ニ其源ヲ發シテ東流セル阿蘇野川ニヨリテ灌溉ノ恩澤ニ浴スルモノナリ、而シテ阿蘇野村宇日ケ暮ニ見ル懸崖(第五版)ノ如キハ實ニ火山構造ノ研究ニ資スル所多大ナリ、是レ亦阿蘇野川ノ賜モノナリ、然レドモ同川ハ終始同様ナル徑路ヲ辿ルモノニ非ズシテ熊群山ノ南麓ニテハ實ニ標式的峽谷ヲ作り流勢亦頓ニ加ハリテ急湍ヲ成セリ(第六版其一部ヲ)、之ニ反シテ大石川ハ其源ヲ南大船山ノ南麓ニ發シ常磐岳ノ南方ヲ東北ニ流走スルモノニシテ其間沃野亦多ケレトモ浸蝕作用ハ一般ノ上流ニテ見ルモノノ如ク逞シカラズシテ終ニ本流ニ注グ、其間一瀑布ヲ見ルノミ。

(C)玖珠川流域 是レ筑後川ノ上流ニシテ其源ヲ域内二ヶ所ニ發ス、一ハ湯坪火山ノ南壁ヲナセル合頭山^{ゴトヤマ}ノ北麓ニ、他ハ九重火山聚巒中ニアル千里ヶ濱ニ、而シテ前者其主流ヲナス、後者ハ玖珠郡飯田村田野中村ニテ其主流(湯坪川ト)ニ會スルマデ

ヲ鳴子川ナルコトイフ、是レ千町無田ヲ蛇行シテ該地方ニ灌溉ノ恩惠ヲ與ヘ傍ラ筑後川水源ノ涵養地ヲ作レリ、而シテ主流ハ大體ニ於テ北流シ三里餘ニシテ東方ヨリ來ル一支流ト合シテ西ニ折レ(域外)終ニ筑後川トナリテ有明海ニ注グ。

玖珠川ノ湯坪地方ニ於ケル浸蝕ハ烈シ、隨テ懸崖又ハ峽谷ヲ形成セルコト尠カラズ。

【第三節】 瀑布

瀧ハ諸所ニアルモ高大ナルモノハ少ナシ、直入郡白丹村ノ西方ニ懸ルモノハ調査區域内ノ南斜面ニ於ケル最大ナルモノニシテ之ヲ高塚ノ瀧トイフ(第七版)北斜面ニテハ玖珠郡田野中村ニ於テ玖珠川ニ懸ル振動ノ瀧ト稱スルモノ最大ニシテ他ハ無名ノモノ多シ。

第四章 九重火山群

【第一節】 總說

第三章地形ノ部ニ於テ記セルガ如ク本火山群ニハ數個ノ隆峰アリ、各火山聚巒ニテハ一般ニ南北ニヨク連立セリ、此地相アルハ火山活動ノ中心ノ屢々其位置ヲ南北ニ變ジタルニ起因ス

ルモノニシテ本火山群ノ通性ヨリ觀ルニ南北ニ弱線アリシモノノ如シ、而シテ其噴出モ幾度カ繰リ返サレ又爆裂作用ノ之ヲ破壞スルアリ以テ今日ノ地形ヲ呈スルニ至リシモノナルモ大體ニ於テハ不規則ナリ、然レドモ現時ノ地貌、熔岩流走ノ方向及熔岩流相互ノ關係ヨリシテ當初ニ於ケル活動力ノ大小及其順序ヲ究ムルコト難カラズ(元ヨリ中ニハ到底究ムル能ハザルモノモアリ)本火山群ノ創成セラレタル最初ノ活動ノ中心ハ那邊ニアリタルヤハ斷定シ得ル地形ヲ存セズ。

今全火山活動ヲ通覽スルニ活動ノ中心ハ屢々其位置ヲ變ジ其活動力ノ強度モ亦角閃アンデシ岩ノ時代ニ最盛ナリシモノノ如シ、而シテ其溢出シタル量モ亦最モ多クシテ古期噴出物ノ上層ヲ廣ク被ヘリ、爲ニ最古期ニ屬スル即チ基底熔岩ノ分布ノ狀態及流出口ヲ窺知スルニ困却セシム。

予ハ便宜上九重火山群ヲ分テ四火山聚巒トセリ、而シテ其各火山聚巒ニ含マル、山名及其標高(メートル)次ノ如シ。

一、九重火山聚巒(本體)

九重山	一、七六四・〇
久住山	一、七八七・九
本山	一、七六〇・〇
三俣山	一、七四四・八

二、大船火山聚巒